



学びを

つなぐ

# 幼保小架け橋ガイドブック 「架け橋期のカリキュラムを作成しよう！」

幼児期(幼児教育)の「学びの芽生え」を  
児童期(小学校教育)の「学びの基礎」へとつなぐ



幼保小接続を通して、**保育・授業の質の向上**を目指す

子どもたちの学びをつなぎ、成長を促すためには、互いの保育・授業を知ることが大切です。子どもたちは「どんな環境」で「どんなこと」をしているのか、子どもたちの育ちや学びを共有しましょう。そして、幼保小連携・接続をきっかけにして、互いの保育・授業のよさを学び合い、さらなる保育改善・授業改善を進めていきましょう。



発行：滋賀県教育委員会  
〒520-8577  
大津市京町四丁目1-1

令和5年3月 滋賀県教育委員会

# もくじ

はじめに～幼保小架け橋ガイドブック作成にあたり～

1 なぜ幼保小接続って大切なの？……………1

- ・1年生はゼロからのスタートではない！
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、幼保小接続の“カギ”
- ・「架け橋期」とは？

2 どのようにして「架け橋期のカリキュラム」を作るの？……………3

- ・「架け橋期のカリキュラム」を作成しよう！
- ・連携から接続へ

3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を確認しましょう！……………11

- ・子どもの発達や学びのプロセス

4 幼保小接続を進めるための現在のフェーズ(段階)は？……………18

- ・「架け橋期」をつなぐ四つの「語る」が大切です
- ・岸野先生から

## はじめに ～幼保小架け橋ガイドブック作成にあたり～



文部科学省の中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」(以下中教審)では、今後の幼児教育の振興と小学校教育との接続等について議論がなされているところです。議論の背景としては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されたことにより、学校種等を越えた連携・接続の手がかりとしてその活用が始まっている一方で、理解や普及、さらなる取組にはまだ課題がある、ということが挙げられます。

義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために極めて重要な時期であり、この時期を中教審では、「架け橋期」と示しています。この時期は、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校という多様な施設がそれぞれの役割を担っています。

これを受け、滋賀県では、令和4年度より、文部科学省委託の「幼保小の架け橋プログラム事業」を彦根市立城東小学校区で実施しています。本事業は、施設類型の違いを越えた幼保小接続を推進するためのモデル事業です。県教育委員会としましては、県独自の幼保小接続の事業である「学びに向かう力推進事業」との連携を図ることで、指定校園だけでなく、県内の取組をさらに充実していきたいと考えております。

本ハンドブックでは、幼保小接続が形骸化することなく、持続的・発展的なしくみとなるヒントを示しています。幼保小の接続においては、「架け橋期のカリキュラム」を作成することがゴールではありません。幼保小が、子どもを中心に据え、語ることを通して、保育・授業の質を向上させ、子どもの育ちをつないでいくことが大切です。

本ハンドブックを、ぜひ御活用いただき、地域の実態に応じながら、幼児教育と小学校教育の一層の連携・接続を推進いただくことを願っております。

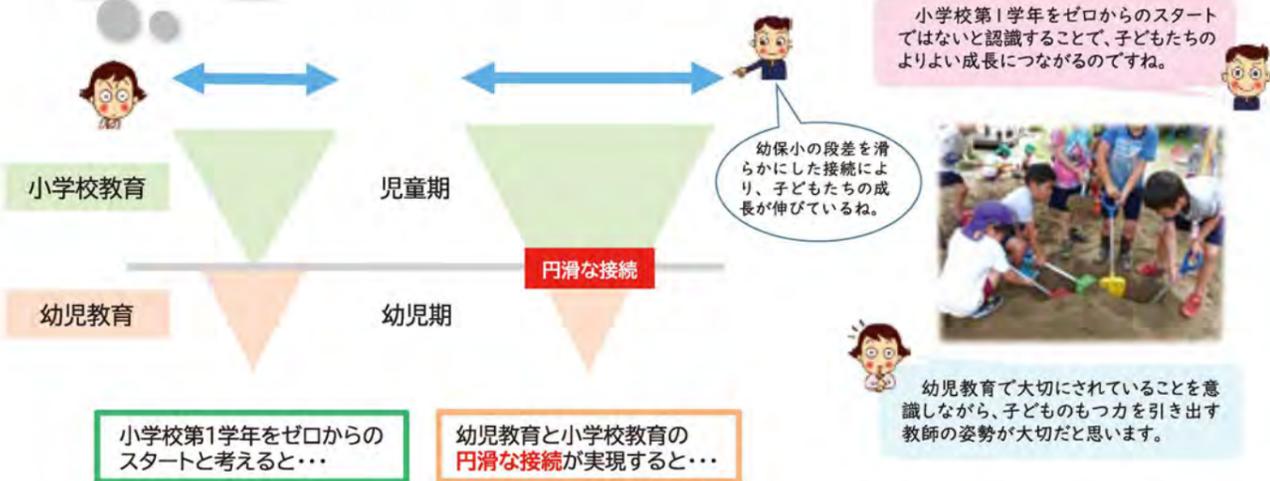
令和5年3月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

なぜ  
幼保小接続って  
大切ななの？

## 1年生はゼロからのスタートではない！

小学校に入学する児童は、幼稚園・認定こども園・保育所・家庭・地域などで、様々な体験を通して学んできています。小学校教育を幼児教育からの延長と考え、つなぐことで、子どもたちの成長を伸ばしていきましょう。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、幼保小接続の“カギ”

0歳から幼児期、そして児童期へ発達や学びはつながっていきます。子どもの成長を切れ目なく支えるために、園と小学校が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、幼児教育で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育が円滑に行われるよう、接続を図ることが求められています。

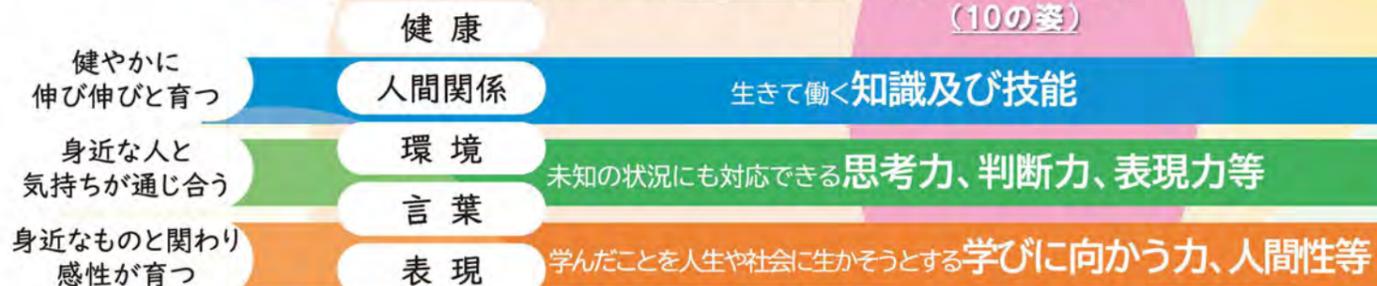
園は指導を行う際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮  
小学校は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」  
子どもの発達や学びのプロセス  
… p.11-17 を参照

## 児童期 学びの基礎

### 幼児期 学びの芽生え

幼児期の  
終わりまでに  
育ってほしい姿  
(10の姿)



※幼児教育では  
資質・能力の基礎を育成

### 乳児期 学びの芽生え

### 遊び

幼児教育

### 学習

小学校教育

## 「架け橋期」の 保育・教育を つなぐ

## 「架け橋期」とは？

5歳児から小学校第1学年の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。この時期を「架け橋期」と言います。  
この「架け橋期」では、幼稚園・認定こども園・保育所、小学校と多様な施設がそれぞれの役割を担っています。施設類型の違いを越えて連携することが大切です。そのために、5歳児から小学校第1学年の2年間を見通した「架け橋期のカリキュラム」を作成しましょう。

それまでの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期。

自分の好きなことや得意なことがわかっていく中で、1年生以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期。

3歳児 4歳児 5歳児 1年生 2年生



ちょっと待って！

すでに「接続期カリキュラム」を作成しているけど…

## 自園・自校の 「カリキュラム」 を見直そう

現在、幼保小接続のカリキュラムを作成している園や小学校が多くあると思います。現在の幼保小接続のカリキュラムについて、下記のチェック項目を参考に見直してみましょう。

- ✓ 5歳児後半から1年生4月～5月までのカリキュラムである。
  - ・5歳児のカリキュラムは、小学校の前倒しのような内容である。
  - ・1年生のカリキュラムは、“小学校に慣れる”ためのカリキュラムである。
- ✓ 園と小学校が協働で策定していない。
  - ・園と小学校が別個で策定しており、協働で策定していない。
  - ・書いていることが細かすぎ、用語がわからない、互いのカリキュラムを見るだけになっている。
- ✓ 年度の途中でカリキュラムを見直すことはない。
  - ・担当者が変わると継続しない。
  - ・年度の途中で見直すことはほぼない。
  - ・複数校園が集まる時間が取れない。
- ✓ そもそも何を手掛かりにカリキュラムを作成すればよいのかわからない。

一つでも  
当てはまったら

「架け橋期のカリキュラム」を作成しよう！  
… p.3-8 を参照

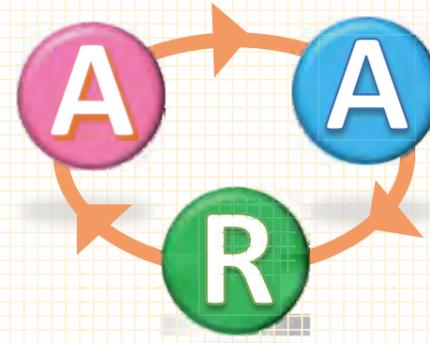
2 どのようにして「架け橋期のカリキュラム」を作るの？

## 「架け橋期のカリキュラム」を作成しよう！

滋賀県として開発中の「架け橋期のカリキュラム」は、園と小学校が協働で作成する「共通シート」と「実践記録」で構成されています。

園と小学校が共通の視点をもって、保育・教育の実践をするために、「共通シート」には、大きく三つの視点を設けています。共通の視点は、①期待する子ども像、②期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、③期待する子ども像に迫るために大切にしたいことです。

園と小学校が共通の視点を理解したうえで、互いに実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られた子どもの学びの姿を「実践記録」に描き出しましょう。実践したことを、互いに振り返り、共有することで、保育・教育の質の向上を図ることが大切です。



**Point**

共通シートには、実践を振り返るための「振り返り枠」を設けています。また、実践記録には、他園や小学校からのコメントを記載する「コメント枠」を設けています。年度途中に実践を振り返ったり、カリキュラムを改善したりするような持続的・発展的な取組を目指しましょう。

### 「架け橋期のカリキュラム」をデザインする手順

**1** 幼児・児童の学びや育ちを理解する

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する
- ・互いの保育・教育について知る

「百聞は一見に如かず」。実際の保育・授業を参観することで、子どもの様子や互いの保育・教育の理解が深まります。また、期待する子ども像を意識して、参観したり語り合ったりすることで子どもの見方を共有することにつながります。



**2** 期待する子ども像を設定する

- ・期待する子ども像を明らかにする
- ・実施期間を検討する（最低5歳児から小学校1年生の2年間実施）

期待する子ども像を語ることで、目的が明確になります。目指す子どもの姿や課題、校園で取り組んでいること等、様々な視点を取り入れながら協議します。協議する中で、期待する子ども像が先に明らかになることもあれば、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を先に見出すこともあります。両方を往還させながら、十分に協議しましょう。

**3** 期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート（案）			【 小学校区】校園名（ ）			
時期	5歳児		第1学年			
	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		2		2		
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		3		3		
大切にしたいこと		4		4		
主な教育課程・予想される活動	Anticipation 見通しをもつ		Anticipation 見通しをもつ			
	5		5			
振り返り	Anticipation 次の期の見通しをもつ		Anticipation 次の期の見通しをもつ			
	Reconstruction 実践の振り返りを踏まえた デザインの見直し・再構成		Reconstruction 実践の振り返りを踏まえた デザインの見直し・再構成			

園と小が協働で策定

子どもの学びの姿を描き出す



子どもの学びの姿を描き出す



**4** 期待する子ども像の育成に向けて、大切にしたいことを共有する

- ・環境・単元の工夫
- ・先生の関わり
- ・一人ひとりの子どもに応じた支援 等

期待する子ども像に迫るために大切にしたいことは、校区の実態によって異なります。項目を増やしたり、内容を検討したりすることで、実態に即したものにしていきたいです。

0歳から7歳における「大切にしたいこと」の手掛かり例も参考にしてください。

0歳から7歳における「大切にしたいこと」の手掛かり例 … p.5 - 6 を参照

**5** 5歳児のカリキュラムをデザイン  
1年生のカリキュラムをデザイン

園と小学校が共通の視点を共通理解したうえで、主な教育課程や予想される活動をデザインします。指導者側で綿密に計画を立てていくというよりも、子どもの姿を思いながら、どんな活動がどうつながっていく可能性があるか、子どもの動きに合わせて変更可能なデザインを考えましょう。



持続的・発展的な取組を目指しましょう



全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう。

その際、地域や園・小学校の実情も踏まえながら、ICTやオンライン等の活用を図るなど、効果的に取り組めるようにしましょう。

